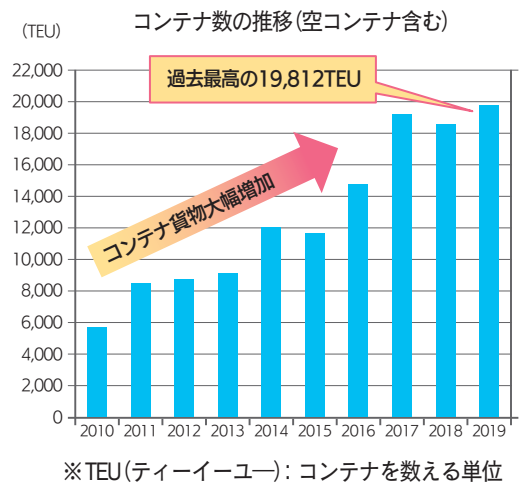




周りを海に囲まれた日本では、船と飛行機を使って貿易が行われていますが、輸出入貨物の99・6％は船で運ばれています(2018年国土交通省港湾局調べ)。

京都舞鶴港は、国際物流ターミナル「舞鶴国際ふ頭」を中心に、石炭や中古車、食料品、重機用部品などを扱っており、昨年の全体取扱貨物量は1,186万トで、10年連続で1,000万トを超えました。中でも、衣類、電化製品、食品まで多種多様な貨物を詰めて運ぶコンテナ貨物の取り扱いが年々増加し、昨年は過去最高の取扱量を記録するなど、国際物流の拠点としての役割が増大しています。

京都舞鶴港の役割 物流



多様な貨物を一度にたくさん運ぶコンテナ船

コンテナって何？

荷物を一度にたくさん運べる大きな箱のこと。そのままトレーラーにも積むことができます。大きさは世界共通で、20フィート(約6m)と40フィート(約12m)があります。

▶20フィートコンテナを乗せたトレーラー



京都舞鶴港の役割

人流・交流

京都舞鶴港には、西港第2ふ頭を中心にこれまで多くのクルーズ船が入港しています。入港時には、クルーズ船の船内見学会やふ頭・まちなかでのおもてなしイベント、子ども達によるお見送りなどを実施し、地域の皆さんが港に親しむ場を提供するきっかけになっています。

また、9月17日には、日本・韓国・ロシアを結ぶ国際フェリー

(※)も就航し、京都舞鶴港を舞台とした人流・交流の促進が期待されます。



※新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う出入国制限措置が緩和されれば、旅客も取り扱われる見込みです。

名付け親になって！ 第2ふ頭 新旅客ターミナル

配布版で告知しておりました第2ふ頭 新旅客ターミナルの名称募集は延期となりました。

なお、名称募集の再開などが決定しましたら、京都府のホームページなどでお知らせいたします。

▶詳しくは、京都府港湾局港湾企画課 (☎ 0773・75・0192) へ。



▲上空から見た京都舞鶴港

◆これが京都舞鶴港だ！

京都舞鶴港は、舞鶴国際ふ頭や第2ふ頭などからなる「西港」と、前島ふ頭などからなる「東港」で構成されています。関西経済圏の日本海側ゲートウェイとして、西港には対岸諸国との貿易やクルーズ船の入港、海上保安庁の拠点があり、東港は北海道との定期フェリー航路や国防の拠点である海上自衛隊舞鶴地方隊があります。

京都舞鶴港の特徴として、湾口が約700mと非常に狭く、また周囲を高い山で囲まれているため、日本海側の港では珍しく大きな防波堤が不要で、年間を通じて波が小さく穏やかであることから「天然の良港」といわれています。このため、災害にも強く、太平洋側で大規模災害が発生した時の重要な災害支援拠点として期待されています。



▲黄色い煙突でおなじみのコスタ・ネオロマンチカ



▲国際物流の拠点



▲舞鶴と小樽を結ぶ新日本海フェリー

新しい旅客ターミナルはこの2棟です！